

小学校 若い先生のための

保護者支援に関する  
なやみごと教材集 



保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク

エデュサポネット Educator Support Network

保護者対応を語る異世代教師たちの経験交流型ワークショップ開発に関する研究(科学研究費助成事業)  
研究代表者 植木 克美(北海道教育大学 教授)

エデュサポ  
ネットは

## はじめに

### 若い先生を応援します！

『保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク』、通称エデュサポネットEducator Support Networkは、保護者さんをサポートする力を身につけたいと考える小学校の先生たち、特に若い先生たちを応援しようとする教育者のネットワークです。これまで創り上げた「人のネットワーク」を、現在は「Web上における人のネットワーク」にまで発展して試みています。エデュサポネット <https://www.edusupp.jp/>

このハンドブックは、子どもの成長発達を支えるために保護者さんと良好な関係を築きたいと考えている小学校の若い先生のためのハンドブックです。ハンドブックには、先輩の先生方がこれまで培ってきた保護者さんとかかわる時のヒントやコツがたくさん詰まっています。

先生にとって保護者さんは子どもを共に育てていくパートナーです。ですから、先生たちは保護者さんと信頼関係を結びたいと考えます。そして、先生は保護者さんと良好な関係を築くことで、子どもたちが学校生活を安心して送り学びを深めていくことを理解しています。

今日、未来を担う子どもたちの成長を支えるために、学校と地域社会、そして家庭との連携・協働が必要とされます。しかし、地域の結びつきが弱くなり、経済的に困窮している、保護者に心身の疾患がある、等のことで子育てに難しさを抱えるご家庭が増えています。そして、子どもが学習につ

まずいている、友達との関係をうまく結べない、登校をしぶるといったことで悩みを抱える保護者さんがいます。このような状況にある保護者さんとのかかわりを、どのように進めていったらよいのでしょうか。

このハンドブックでは、学校の日常的場面で保護者さんとのかかわりで困ったときにヒントになるエピソードを掲載しています。ちょっと困ったときに、読んだり、エピソードについてまわりの先生たちと感想を交換し合うことで、目の前が少し開けることがあるかもしれません。

エピソードは、エデュサポネットメンバーが経験したことをもとに創作しています。若い先生たち、そして若い先生を応援したいと考えている先生のお役にたてばうれしいです。

なお、ハンドブックは保護者対応を語る異世代教師たちの経験交流型ワークショップ開発に関する研究（平成31年度～令和3年度科学研究費助成事業）の助成を受け作成しています。

2022年2月吉日

エデュサポネット 代表 植木 克美  
(北海道教育大学大学院 教授)



ジュリさん

エデュサポネットの  
メインキャラクター  
将来、教師を目指し勉強中

イラスト：尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)



## ★ エデュサポネットメンバーです! ★



**kuko**

小学校教諭として、30数年勤めています。個性豊かな子どもたちと、保護者の方々との関わりを楽しもうとしています。学校心理士、公認心理師の資格もっています。



**ボル**

教職20年目です。期限付き教諭として中学校3年間を経て、小学校17年目。主に高学年の担任をしています。大学院では「教員の同僚性」について研究しました。雰囲気の良い職場って大事ですね。公認心理師です。



**wari**

小学校に長年勤務しています。子どもと一緒に遊べるように体力維持に努めています。宜しくお願いします。



**カトウ**

小学校教諭、教職経験3年目です。



**きみどり**

小学校教職歴5年目です。色々な保護者の方と出会い、日々、勉強しています。エデュサポネットを通して、自分自身を振り返るといいなと思います。



**すじこ**

小学校の特別支援学級担任です。教職経験8年目になります。



**たけちゃん**

大都市の小学校で勤務しています。教職経験11年目になっても、「明るく元気に」をモットーに、日々、子どもたちとがんばっています。



**セージ**

小学校で勤務しています。現在、14年教師をしております。これまでの経験を生かしていければと思っています。



**シゲン**

特別支援学校勤務（知的、病弱、肢体不自由）で、教職経験20年目です。



**みっちゃん**

小学校教諭で教職28年目（幼稚園3年、通常級15年、特別支援13年、コーディネーター8年）です。特別支援教育における保護者とのかかわりを一緒に学んでいきたいです。学校心理士の資格を取りました。



### はむこ

小学校に32年間の勤務経験があります。



### らんちゃん

現在、小学校養護教諭（小、中、高の経験あり）、経験年数31年です。学校心理士、臨床発達心理士、保育士、ガイダンスカウンセラーです。



### まこぴこ

小中学校で通常級・支援級・通級の経験があります。学校心理士・公認心理師です。大学院では「保護者との関係構築」について研究しました。



### 熟年ミッチー

特別支援学級担任を36年勤め、10年間は、特別支援教育コーディネーターをしていました。現在は、大学及び大学院の教員をしています。



### りょうちゃん

中学校教師を経て、現在幼稚園園長です。大学院で学校臨床心理学を学び、公認心理師の資格を得ました。絵本による保育の大切さを実感しています。



### みかん

私は特別支援学校・学級に勤務してきました。教職歴は34年になります。新しい気付きを見つけていきましょう。



### clovernyanko

小学校教諭で特別支援学級（17年）、通常の学級（15年）を経験しています。大学院に通っています。語ること、聴くことで得られる気づきがあります。



### クッキーK

小学校教員を37年勤め、担任、特別支援教育コーディネーター、教頭、校長それぞれの立場から教育活動に携わってきました。現在は公益財団法人の専門職をしております。



### さく

札幌市の小学校で教員をしています。教員生活は2年目になります。今は低学年の子どもと毎日楽しく過ごしています！よろしくをお願いします。

#### 研究代表

#### ●植木 克美

北海道教育大学大学院  
教育学研究科 教授

#### 研究協力

#### ●渡部 信一

東北大学大学院 教育学研究科 教授

#### ●中島 平

東北大学大学院 教育学研究科 准教授

#### ●山本 愛子

北海道文教大学・大学院  
こども発達学研究科 准教授

## 保護者とのかかわりでの困り事

## 若い先生編 I

1

## エピソード

保護者に相談したいのに  
連絡がとれません。

大地先生  
教職年数4年目の  
小学校教師



ジュリさん  
教師を目指して  
勉強中

2



どのような出来事があったか聞かせてください。

登校をしぶるヒカルくんが2学期になり  
学校に来なくなってしまいました。

お母さんに電話をかけても  
なかなかつながらず、大変困りました。



3



その時、先生はどのような気持ちでしたか？

4月にはお母さんと信頼関係を築けた  
と思っていたのに・・・

お母さんはひとりで子育てし働いているため、  
私が何度も連絡するので煩わしいのかなとも思いました。



4



先生の気持ちをさらに詳しく聞かせてもらえますか？

ヒカルくんはそのまま学校に全く来なくなり、家に閉じこもってしまうのでないかと思いました。

電話に出てくれないし、心が折れました。



5



その後、先生はどうしたのですか？

家庭訪問をして、ヒカルくんが放課後等デイサービスに通い始めていることを知りました。



6



ヒカルくんが放課後等デイサービスに通っていると聞いて、どう思いましたか？

ヒカルくんにとって学校って何なのだろうって思いました。

学校の限界を感じ悲しい気持ちになりました。



7



他の先生に相談したことはありますか？

ベテランの先生たちに相談して、「それはきついね」「学校だけでは対応が難しいね」と言ってもらいました。



8



ベテランの先生のことばを聞いて、どのように感じましたか？

「大変だ」、「きつい」と思ってもいいんだと安心しました。

自分の考えを肯定してもらえたと思いました。



9



ベテランの先生から何かアドバイスをもらったことはありますか？

放課後等デイサービスに連絡してヒカルくんの様子を聞いてみてはとアドバイスをもらいました。



10



今後、お母さんとはどのようにかかわって  
いきたいですか？

お母さんは困っていたので、その気持ちを理解して、  
お話を続けていきたいです。



11

## ジュリさんの気づき

- 先生は子どものことを一生懸命考えて、保護者と信頼関係をつくろうとします。けれど、関係がくずれることで心が折れてしまうことがあるんですね。
- ベテランの先生に話をしてアドバイスをもらうことで、若い先生は安心するし、どうしたらよいかを考えることができるんですね。



12

## お・し・ま・い

### 若い先生の保護者支援



大地先生



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーが経験した  
ことをもとに創作しています。>

イラスト：尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

## 保護者とのかかわりでの困り事

## 若い先生編Ⅱ

1

## エピソード

## 「私は先生の言うことしか聞きません！」



大地先生  
教職年数4年目の  
小学校教師



ジュリさん  
教師を目指して  
勉強中

2



どのような出来事があったか聞かせてください。

転校生のれんくんのお母さんから、「私は先生の言うことしか聞きません。他の先生の言うことは何も聞きません」と言われました。

私はとても驚いて、すぐに学年団の先生、  
教頭先生に相談しました。



3



れんくんは、クラスになじめましたか？

れんくんはサッカーが上手で  
子どもたちと打ち解けました。

でも、機嫌がよいときとそうでないときの差が  
とても大きく、気分に波がありました。



4



そのことをお母さんにはお話をしましたか？

はい、でも、連絡した時、お母さんは調子が悪そうなことがありました。  
気を遣って話をしましたが、れんくんの気持ちは荒れたままでした。

お母さんの調子が良さそうだと、れんくんもすぐ落ち着きます。  
れんくんとお母さんの気持ちの波が重なっているようでした。



5



その後は、どうしたのですか？

お母さんに教頭先生や他の先生たちが、コミュニケーションをとって  
くれました。お母さんはだんだん心を開いてくれるようになりました。

そして、ある時、私に「この子と、私も精神科に通って  
いるんだよね」と話してくれました。



6



それを聞いた時、先生はどのように思いましたか？

驚きと話してくれたうれしさが入り混じりました。学校でも  
特別な支援が必要ではないかという話が出てきました。

このことを聞いたすぐ後に、  
れんくんが転校することになりました。



7



そうでしたか・・・。

お母さんは最後に「ありがとうございました」と言ってくれたので、学校のことを悪くは思っていなかったと思います。

でも、このことをもう少し早く知ることができたら、支援の体制を整えることもできたのにと思いました。心残りではありました。



8

## ジュリさんの気づき

- もし、保護者から「先生の言うことしか聞きません」と言われたら、どうしていいかわからなくなるなと思いました。
- 子どもとお母さんの気持ちの波が重なるんだということがわかりました。
- 子どものことを伝えるときに、お母さんがどのような状態かを考えてお話する必要があるって、1つ1つことばを選んで話さなければダメなんです。難しそうだなと思いました。
- れんくんは、転校先で支援を受けることができたのか気になりました。



9

## お・し・ま・い

### 若い先生の保護者支援



大地先生



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーが経験したことをもとに創作しています。>

イラスト：尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

1

### エピソード

## そうせざるを得ない保護者の気持ち…



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。  
エデュサポネットのファシリテータです。

2



小学校の養護教諭が、保健室登校のお子さんと保護者にかかわった経験を紹介します。

保護者とのかかわりは、すごく沢山ありました。  
何をどう話せばいいか…

教室に入ることが難しかった3年生のあかねさんの保護者に1年間かかわりました。保護者は保健室で過ごすあかねさんに付き添っていました。



3



あかねさんは、保健室でどのように  
過ごしていたのですか？

私は、あかねさんが学級と切れないことが大事だと思っていたので、勉強のことや家庭のことは、担任の先生に任せました。

あかねさんは、担任の先生が作った学習プログラムに、保健室で取り組んでいました。



4



それでは、先生は保護者と  
どのようにかかわったのですか。

担任の先生が、あかねさんを気にかけていることを  
保護者に理解してほしいと思いました。

そのため、学級行事などについては、担任の先生から  
保護者にお話をしてもらおうようにしました。



5



保健室での保護者の様子はどうでしたか。

保護者は、あかねさんに  
いつも穏やかに話していました。

そして、あかねさんの気持ちが学級に向くように、「ゆっくり、  
あせらずに待つことが大切ですよ」と言われていました。



6



先生が、気になったことはありますか。

いつもは穏やかな保護者が、時にはあかねさんに  
きつい言葉をかけてしまうことがありました。

保健室では元気に過ごすのに、学級には全く関心を示さないあかね  
さんに、「ああ、イライラしてしまう…」とつぶやかれることもありました。



7



保護者とかかわられて、  
先生はどのように考えましたか。

「寄り添うことが大切ですよね」なんて、  
保護者によく話してきました。

あかねさんを見守る保護者の様子を見ると、  
寄り添うって本当に難しいことだなってわかりました。



8



あかねさんの保護者とかかわりから  
気づいたことがあったのですね。

本当に寄り添うということは、すごく辛抱の必要な  
ことなんだって、身にしみて感じました。

その中で、つきつい言葉も出てしまう、そうしないではい  
られなかった保護者の辛さがわかり、心が痛みました。



9

## なみちゃんの一言



- 養護教諭が保健室登校の子どもや保護者とかかわるとき、担任との橋渡し役でもあるのだなと思いました。
- 「寄り添う」ということは、とても辛抱が必要なことなのだ、と先生のお話から分かりました。
- そんな保護者の辛さを理解して、寄り添えたらいいなと思いました。

10

## お・し・ま・い



なみちゃん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーが経験したことをもとに創作しています。>

イラスト：尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

保護者さん  
から

エピソードはわかりやすく良いと思いました。  
誰にも何も言われていなくても、保護者の気持ちはあせりや不安でいっぱいだと思いますし、もしかしたら祖父母やパートナーに「お前のせいでこうなった」と思われているのでは？と感じているかもしれません。

そういう時に、保護者の気持ちにも先生が寄り添ってくれると安心して保護者もあせらず、自分をせめず、子どもにかかわっていきそうですね。



1

エピソード

### 子どもに沢山の支援を 保護者が求めています



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。  
エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

2



小学校の先生が、若かった頃に経験した  
お話をお聞きします。

僕が初めて3年生を担当した時のことです。ひろみさんは発達に偏りがあって、様々な場面で個別の支援が必要でした。

僕は、学年の先生たちからアドバイスを  
もらいながら、やっていました。



3



ひろみさんのことで、どんなことがありましたか。

ある時ひろみさんのお母さんから電話が来て、もっとこんな支援をしてほしい、とたくさん要望がありました。

お母さんが相談している専門機関から、  
学校に要望するよう言われたそうです。



4



先生はどうしたのですか。

お母さんの要望していることは、僕もできたらいいだろうな  
と思うことでした。でも、学校としては難しいと思いました。

それでお母さんに、いい提案だと思うが、  
学校としては実現が難しいと伝えました。



5



お母さんの反応はどうでしたか。

僕の言葉を聞いて「ひろみは、この支援があればとても楽になる  
のに、結局学校は何もしてくれない」と怒ってしまいました。

僕は困ってしまって、謝るだけでした。



6



その後、先生はどうしたのですか。

困った僕は、学年の先生に相談しました。

すると「全部が全部、できないわけではないんじゃないかな。  
1か100かで考えてはだめだよ」と言われました。



7



学年の先生が言ったことは、  
どんな意味だったのでしょうか。

「全部はできないけど、これならできる。そこまではできないけど、ここまでならできる。そう考えたらどうかな。」

できることが見えてくるんじゃないかな」  
と話してくれました。



8



保護者が怒ってしまったことについて、  
何か話してくれましたか。

お母さんは「できません」と言われて、すべて拒否されたような気持ちになったから、怒ってしまったのではないかと思います。

「これならできる」という言い方をすると、聞いてもらえた、受け入れてもらえた、と考えてくれるよ、と教えてくれました。



9



先生は、その話を聞いてどう考えましたか。

学年の先生から教えてもらった考え方は、  
いろいろな場面で使えると思いました。

これからは、無理だと思うことでも、  
できることを見つけてみようと思いました。



10

## なみちゃんの一言



- 保護者からたくさんの要望が出されると、それは無理だ、と思ってしまうかもしれません。
- そんなときは、一つ一つの要望をステップにして考えてみると、できることとできないことが見えてきます。
- 保護者と一緒にステップを考えて、折り合い点を見つけることで、前に進むことができます。

11

## お・し・ま・い



なみちゃん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーが経験したことをもとに創作しています。>

イラスト：尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

保護者さん  
から

保護者側の状況や思い、悩んでいることに対しても想像してあたたかく寄り添ってもらえると嬉しいです。保護者も先生に対して、感謝や申し訳なさを感じていることも多いと思います。先生と保護者がお互い子どもを育てる良き理解者として支え合えることを目指して取り組んでいただけたらと思います。



この教材集はここでおわりですが、  
エピソードをもっと読みたい方は、エデュサポネットホーム  
ページを閲覧ください。

こちらでは、

- 1 保護者に関する悩みごとの教材集
- 2 保護者に関するお悩み Q&A

を掲載しています。

エデュサポネットホームページ

<https://www.edusupp.jp/>





ジュリさん

エデュサポネットの  
メインキャラクター  
将来、教師を目指し  
勉強中

## 著 者

---

### 保護者支援をともに学ぶ教育者ネットワーク エデュサポネット Educator Support Network

保護者対応を語る異世代教師たちの経験交流型  
ワークショップ開発に関する研究（平成31年度～令和3年度科学研究費助成事業）

研究代表者 植木 克美（北海道教育大学 教授）

令和4年2月28日発行

エデュサポネットホームページ <https://www.edusupp.jp/>

